

2024年度

教養教育科目
履修の手引

(法学部・経済学部 夜間主コース)



OKAYAMA
UNIVERSITY



Okayamaの「O」Universityの「U」をデザインのモチーフにしています。全体のフォルムは常に世界に向かって開かれる「知の扉」を表現しており、岡山から「知のコミュニケーション」が始まってゆく様をイメージしています。

ブルーの色調は、岡山大学の叡智を表現するとともに、「晴れの国」の青空を象徴しています。

2012年4月に、コミュニケーションシンボルとして制定されました。

はじめに

この「履修の手引」には、岡山大学に入学された皆さんが、教養教育科目を学ぶ上で必要な情報が記載されています。

大学では、高校時代とは違い、入学した当初から自分自身で考え、選び、行動することが求められます。大学で学ぶということは、自ら学ぶ、自主的に学ぶ態度、習慣をしっかりと身につけていくことです。

例えば、授業時間割でみると、高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められ、選択の余地はあまりなかったと思いますが、大学は、多くの授業科目の中から、一定のルールにのっとり自分の勉強したい科目を調べ、選び、届け出、確認するといった作業を自分の意思で責任を持って行わなければなりません。

岡山大学では、学部・学科・専攻ごとに「卒業に必要な単位数」が定められています。この条件を満たさないと、卒業ができなくなりますので、この「履修の手引」及び学部の「学生便覧」等を熟読した上に、各授業科目の内容が掲載された「授業概要（シラバス）」を活用して、納得のいく学修計画を立ててください。

掲示・メールの確認

学生の皆さんへの連絡は、基本的に掲示・メールによって行います。
教養教育科目に関する掲示は、一般教育棟A棟1階掲示板により行いますので、1日1回は確認するようにしてください。

また、大学からのメールは重要事項が多く含まれますので、受信メールは必ず確認するようにしてください。

教養教育科目の「シラバス」及び「履修の手引・授業時間表」は、岡山大学のHPから閲覧できます。

岡山大学HP (<https://www.okayama-u.ac.jp/>)

→「在学生・保護者の方」→「シラバス」

→「履修・成績等」→「教養教育履修の手引」

→「履修・成績等」→「教養教育授業時間表」

もくじ

はじめに	1
------	---

巻 頭

主要なスケジュール	4
2024（令和6）年度 岡山大学授業日程計画	5

1. 岡山大学における教育

1-1 岡山大学の理念・目的・目標	6
1-2 岡山大学における学士課程教育構築の取り組み	7
1-3 岡山大学の教育課程	9
1-4 大学で学ぶために	11

2. 岡山大学における学び

2-1 学年暦	13
2-2 学年と学期	13
2-3 授業日程と授業時限	13
2-4 単位の基準	14
2-5 成績の評価	14
2-6 特別な単位の認定	17
2-6-1 入学前の既修得単位の認定	
2-6-2 放送大学の修得単位の認定	
2-6-3 外部検定試験による単位の認定	
2-6-4 留学による単位の認定	
2-6-5 他の大学・高等専門学校等との単位互換協定に基づく修得単位の認定	

3. 教養教育の学び

3-1 岡山大学ディグリー・ポリシー（DP）、教養DP要素、学修成果	21
3-2 導入教育科目	23
3-3 知的理解科目	24
3-4 実践知・感性科目	24
3-5 汎用的技能と健康科目	25
3-6 言語科目	28
3-7 高年次教養科目	30

4. 授業の履修手続き

4-1 履修登録に必要なもの	31
4-2 履修登録の方法	31
4-3 教養教育科目の抽選について	32
4-4 履修登録のルール	33
(1) 教養教育科目授業時間表	
(2) 全学部共通の注意事項	
(3) 各科目の履修上のルール	
①学部ガイダンス科目	
②知的理解科目、実践知・感性科目、汎用的技能と健康科目の内、英語で行われる科目	
(4) 他学部が開講する専門教育科目の履修について	

もくじ

5. 受講上の注意

5-1 教室	35
5-2 授業に関する連絡	35
5-3 教室変更	35
5-4 休講・補講	35
5-5 公欠・準公欠・その他の欠席	35
5-6 レポートの提出	36
学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて	38

6. 試験及び成績の評価

6-1 受験心得	41
6-2 不正行為	41
6-3 受験延期願（追試験）	42
6-4 成績の通知	42
6-5 成績評価に関する質問・疑問の受付について	43

7. 学びのサポート

7-1 教科書の購入方法	44
7-2 教科書の活用方法	44
7-3 大学内で自主的に学習したいとき	44
7-4 授業が分からない、授業について質問があるとき	44
7-5 外国語をもっと学習したいとき	45
7-6 授業評価アンケート	46

巻末資料

欠席届	48
文学部・法学部・経済学部 教室配置図	49

主要なスケジュール

2024年度の大学の行事と入学当初の大事なスケジュールを示しています。よく確認してください。

年月日	学年暦	行事
3月27日(水)～4月5日(金) 正午		教養教育科目に関する抽選・クラス分け説明会 ※岡山大学HPにて、オンデマンド配信
4月1日(月)	学年始め	
4月1日(月)～6日(土)		新入生オリエンテーション ※日時・場所については、【See→「入学案内」9頁】
4月2日(火)	入学式	
4月3日(水)～4月5日(金)		リングスキル(4技能) ※学部学科ごとに、指定の日時・場所にて対面受検
4月3日(水)～4月中		新入生健康診断 【See→「入学案内」12頁】 ※5月の健診実施期間内でも予約は可能ですが、予約枠は限られます。
4月7日(日)		必修英語クラス分け結果発表 初修外国語クラス分け結果発表 教養教育科目(第1学期)抽選結果公開(1年次生のみ)
4月8日(月)		第1学期授業開始
4月上旬～		第1・2学期, 夏季集中 履修登録
5月上旬		教養教育科目抽選登録(第2学期, 夏季集中開講)
5月中旬		教養教育科目(第2学期, 夏季集中開講) 抽選結果公開
6月上旬		《第1学期末試験》授業時間内で適宜実施
6月7日(金)		第2学期授業開始
8月上旬		《第2学期末試験》授業時間内で適宜実施
8月11日(日)～9月30日(月)	夏季休業	
8月下旬～9月中旬		教養教育科目抽選登録(第3・4学期, 冬季集中・春季集中開講)
9月中旬		教養教育科目(第3・4学期, 冬季集中・春季集中開講) 抽選結果公開
9月下旬～		第3・4学期, 冬季集中・春季集中 履修登録
9月25日(水)	学位記等授与式	
10月1日(火)		第3学期授業開始 秋季入学者入学式
11月下旬		《第3学期末試験》授業時間内で適宜実施
11月29日(金)		第4学期授業開始
12月25日(水)～ 2025年1月4日(土)	冬季休業	
1月17日(金)		共通テスト実施に伴う臨時休講
2月上旬		《第4学期末試験》授業時間内で適宜実施
2月15日(土)～3月31日(月)	春季休業	
2月下旬～3月上旬		教養教育科目抽選登録(次年度第1学期開講)
3月25日(火)	学位記等授与式	
3月下旬		教養教育科目抽選結果公開(次年度第1学期開講)
3月31日(月)	学年終了	

2024(令和6)年度 岡山大学授業日程計画

月	曜日							備 考	月	曜日							備 考	
	日	月	火	水	木	金	土			日	月	火	水	木	金	土		
4 月		1	2	3	4	5	6	2日 入学式	10 月			1	2	3	4	5	1日 第3学期開始	
	7	8	9	10	11	12	13	3日～5日 リンガスキル (2024年度入学生)		6	7	8	9	10	11	12	1日 秋季入学者入学式	
	14	15	16	17	18	19	20	8日 第1学期授業開始		13	14	15	16	17	18	19	14日 スポーツの日	
	21	22	23	24	25	26	27			20	21	22	23	24	25	26	注: 15日 月曜日の授業を行う	
	28	29	30					29日 昭和の日		27	28	29	30	31				
5 月			1	2	3	4	注: 1日 月曜日の授業を行う	11 月						1	2	3日 文化の日		
	5	6	7	8	9	10	11		3日 憲法記念日	3	4	5	6	7	8	9	4日 振替休日	
	12	13	14	15	16	17	18		4日 みどりの日	10	11	12	13	14	15	16	2日～4日 大学祭	
	19	20	21	22	23	24	25		5日 こどもの日	17	18	19	20	21	22	23	注: 6日 月曜日の授業を行う	
	26	27	28	29	30	31			6日 振替休日	24	25	26	27	28	29	30	23日 勤労感謝の日	
							注: 7日 金曜日の授業を行う								29日 第4学期開始			
6 月							1	7日 第2学期開始	12 月	1	2	3	4	5	6	7	25日～1月4日 冬季休業	
	2	3	4	5	6	7	8			8	9	10	11	12	13	14		
	9	10	11	12	13	14	15			15	16	17	18	19	20	21		
	16	17	18	19	20	21	22			22	23	24	25	26	27	28		
	23	24	25	26	27	28	29			29	30	31						
30																		
7 月		1	2	3	4	5	6	注: 12日 月曜日の授業を行う	1 月				1	2	3	4	1日 元日	
	7	8	9	10	11	12	13			5	6	7	8	9	10	11	13日 成人の日	
	14	15	16	17	18	19	20			12	13	14	15	16	17	18	注: 14日 金曜日の授業を行う	
	21	22	23	24	25	26	27			19	20	21	22	23	24	25	17日 共通テスト実施に伴う臨時休講	
	28	29	30	31						26	27	28	29	30	31	18,19日 大学入学共通テスト		
8 月					1	2	3	11日 山の日	2 月							1	11日 建国記念の日	
	4	5	6	7	8	9	10			2	3	4	5	6	7	8	23日 天皇誕生日	
	11	12	13	14	15	16	17			9	10	11	12	13	14	15	24日 振替休日	
	18	19	20	21	22	23	24			16	17	18	19	20	21	22	25,26日 一般選抜(前期日程)	
	25	26	27	28	29	30	31			23	24	25	26	27	28			
9 月	1	2	3	4	5	6	7	16日 敬老の日	3 月							1	20日 春分の日	
	8	9	10	11	12	13	14			2	3	4	5	6	7	8		25日 学位記等授与式
	15	16	17	18	19	20	21			9	10	11	12	13	14	15		
	22	23	24	25	26	27	28			16	17	18	19	20	21	22		
	29	30								23	24	25	26	27	28	29		
							30	31										
第1学期計	8	8	8	8	8	8	授業週数(含試験)	第3学期計	8	8	8	8	8	8	授業週数(含試験)			
第2学期計	8	8	8	8	8	8		第4学期計	8	8	8	8	8					

第1学期 4月1日～6月6日

第2学期 6月7日～8月10日

第3学期 10月1日～11月28日

第4学期 11月29日～2月14日

試験期間

休業日及び臨時休講を示す。

他の曜日の授業を行う日を示す。

気象警報等により休講とした場合の補講日を示す。

※補講については、授業担当教員が指定した日に行う。

1. 岡山大学における教育

1-1 岡山大学の理念・目的・目標

1. 岡山大学の理念

“高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかねばなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

2. 岡山大学の目的

“人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるという、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3. 岡山大学の目標

(1) 教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

(2) 研究の基本的目標

岡山大学におけるあらゆる活動の源泉は、先進的かつ高度な研究の推進にあります。常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向します。

(3) 社会貢献の基本的目標

社会が抱える課題を解決するため、総合大学の利を生かし、大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時に、積極的に社会との双方向的な連携を目指します。

(4) 経営の基本的目標

研究、教育の目標を効果的に達成するため、大学に賦存する人材、財政、施設設備などの資源をトップマネジメントにより戦略的に利活用します。

(5) 自己点検評価の基本的目標

公的機関として社会への説明責任を果たすため、研究、教育、社会貢献、管理運営のすべての分野において不断の自己点検評価を実施し公表するとともに、その結果を的確に大学改革に反映します。

1. 岡山大学における教育

1-2 岡山大学の教育における方針

1. 養成する人材像

自ら行動を起こすために学び続ける実践者

教育の基本的目標に掲げられた、学生が「主体的に” 知の創成” に参画し得る能力」を専門力及び探究力、「学生同士や教職員との密接な対話や議論」をコミュニケーション力、「豊かな人間性」を教養力、「国内外の幅広い分野において中核的に活躍」を実践力としてそれぞれ捉え、第4期中期目標・中期計画の期間においては、本学の理念と目的に基づき、新たな価値創造と世界の革新に貢献できる「主体的に変容し続ける先駆者」を養成します。

学士課程では、以下5つの力を持つ人材を養成します。

自ら進んで、課題解決に挑む実践力

自ら問うて、課題を見出す探究力

語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力

基礎的かつ体系的な専門力

自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力（教養力）

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

本学は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

実践力 自ら進んで、課題解決に挑む実践力

身近な課題と向き合い、解決に向けて行動することができる。

探究力 自ら問うて、課題を見出す探究力

対象に疑問を持って、多面的な検討を加えて課題を明らかにすることができる。

コミュニケーション力 語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力

出会いの中から違いを理解し自らを高めることができる。

専門力 基礎的かつ体系的な専門力

それぞれの専門領域の土台となる知識、技能を生かすことができる。

教養力 自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力

身の周りの事象に好奇心を持ち学び続けることができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、全学として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

1. 岡山大学における教育

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

共通教育

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

特に学士課程では、自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

専門教育

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

特に学士課程では、自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ基礎的な専門知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

言語教育

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

特に学士課程では、聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を創出します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ① 自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。
人が交わる共通教育、知が交わる専門教育、言葉が交わる言語教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。
- ② 総合大学の長をを活かした教育体系を提供します。
自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を全ての課程で展開します。
- ③ 学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。
学士課程から大学院課程で留学やインターンシップ、プラクティカム等、地域や世界とつながった実社会における学びを提供します。

学修評価の考え方

厳格な学修評価を実施します。

授業科目の成績評価については、その基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

正課外教育の考え方

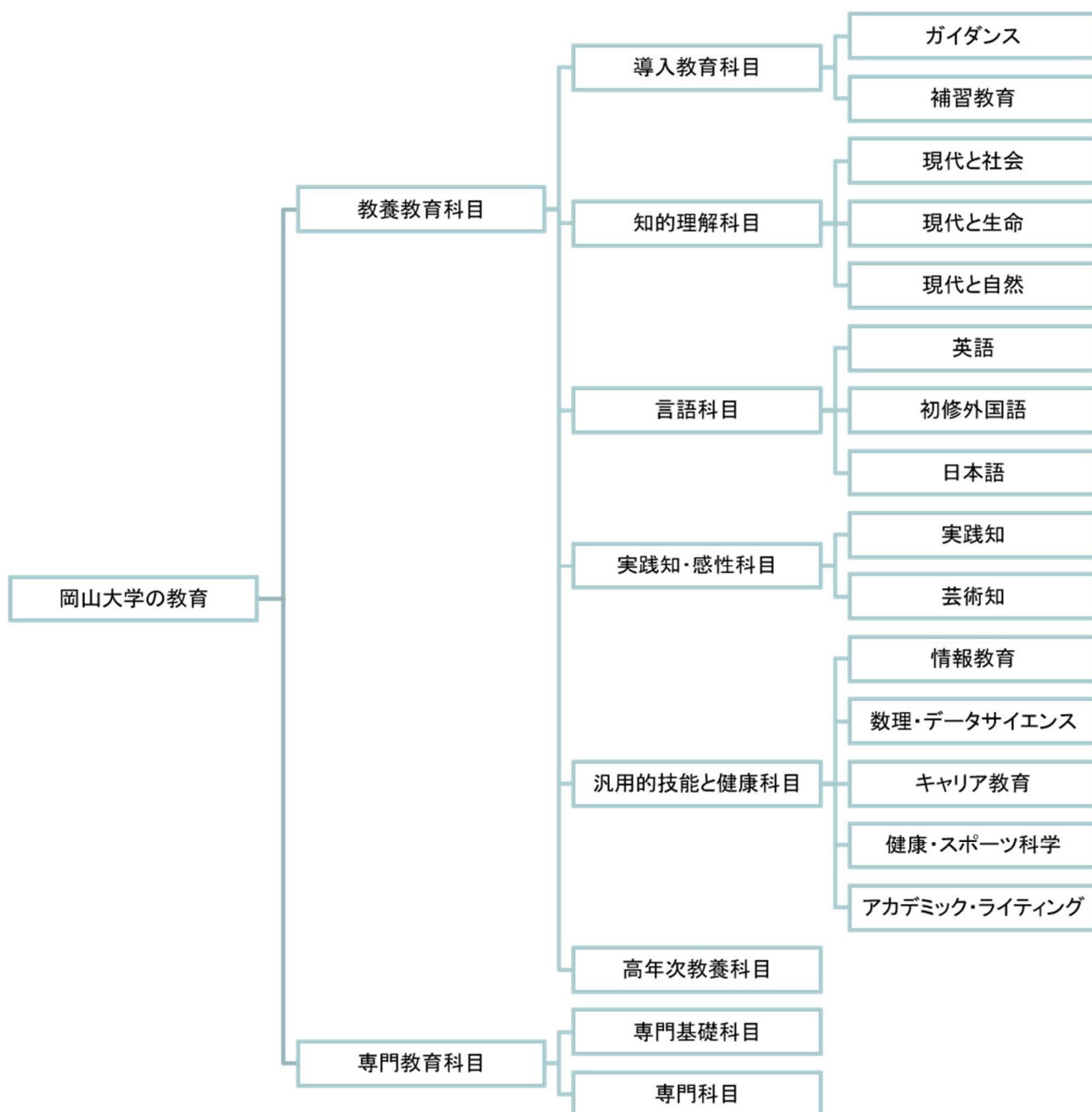
学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

1. 岡山大学における教育

1-3 岡山大学の教育課程

1. 二つの大きなプログラムー「教養教育」と「専門教育」ー

岡山大学の教育プログラムは、所属する学部の違いを超えた共通の授業内容から成る「教養教育」と、それぞれの学部に固有の授業内容から成る「専門教育」の二つで構成されています。



1. 岡山大学における教育

2. グローバル人材育成特別コース（Gコース）

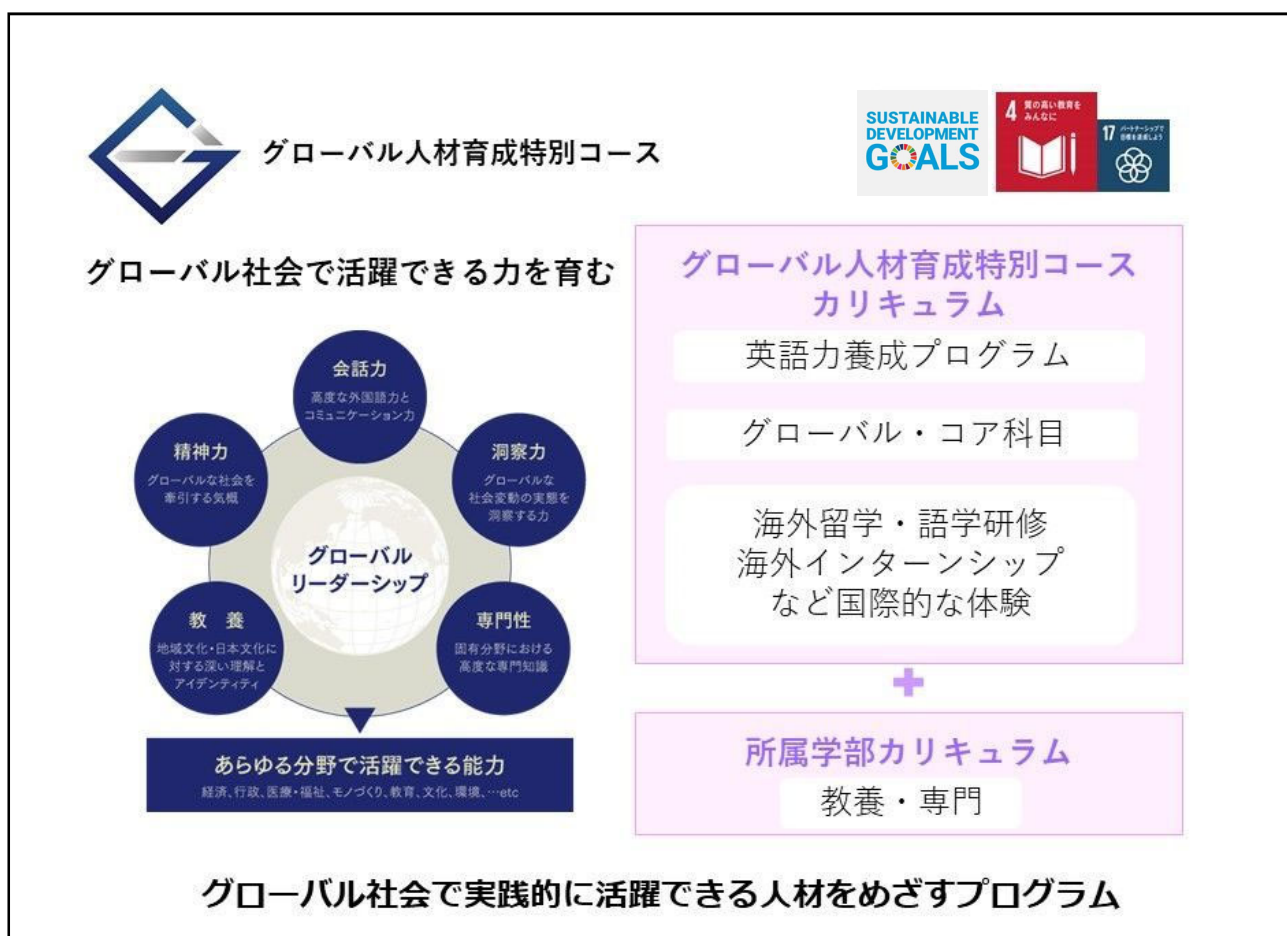
このコースでは、将来グローバル社会のリーダーとして実践的に活躍できる人材を育成します。コース生になると、それぞれの学部等に所属しながら国際色あふれるコースカリキュラムを履修します。1年次を中心に4技能（読む・聴く・書く・話す）を徹底して鍛える英語力養成プログラムで語学力を高め、SDGsに関連する授業など多彩な科目を備えたグローバル・コア科目で、世界のさまざまな課題を意識しながらグローバル社会の在り方への理解を深め、論理的思考力やコミュニケーション能力を培います。このコースで学んだ学生たちは語学研修や異文化体験、海外留学やインターンシップ、推奨する国際会議やSDGsに関連する活動などさまざまな国際的な体験を通して、豊かな国際感覚を磨き、主体的な行動力や相互理解を深める力を高め、優れたグローバルリーダーシップを育み、グローバルに活躍できる人材をめざします。

グローバル人材育成院では、コース生の学修計画に応じて、コースの履修や英語の学習・海外研修・留学への参加など、さまざまな場面でサポートを行っています。

⇒詳細はこちらをご覧ください。

グローバル人材育成特別コース HP <http://global.okayama-u.ac.jp>

入学～修了までの流れ



1. 岡山大学における教育

3. ナンバリングコード

ナンバリングコードとは各授業科目の分野、対象学生及び授業内容のレベル等を分類し、特定の記号や番号を付すことで教育課程の体系性を明示するコードのことです。

岡山大学のナンバリングコードは、「AREA t TGET x pqr W」の14桁で構成されており、「AREA=分野」「t=授業形態」「TGET=対象学生」「x=レベル」「pqr=授業を識別するための連番」「W=留意事項の有無」の6つのカテゴリーに区別されます。各カテゴリーの詳細については「巻末資料(P.51～)」をご覧ください。

なお、ナンバリングコードは各授業科目のシラバスに掲載されています。詳細については、WEBシラバスで確認してください。

1-4 大学で学ぶために

1. 学生番号

学生番号とは学生個人を表す番号で、学生証に8桁で表されています。出席カード、レポート、試験の答案など、重要な書類の提出の際に必要となりますので、学生証は常に携帯し、学生番号も間違いのないように記憶しておいてください。

学生番号の構成は次のとおりです。

【法学部法学科夜間主コース501番の学生の場合】

学部コード (2桁)	課程コード (1桁)	入学年度 (2桁)	一連番号 (3桁)
0 3	B	2 4	5 0 1

【学部コード】

学 部	学部コード
法学部	03
経済学部	04

2. 資料に目を通す

大学では、自分で授業を選び、自主的に学んでいく姿勢を持たなくてはなりません。そのための資料として、次のようなものが用意されています。

- ・『教養教育科目 履修の手引・授業時間表』
- ・各学部の『学生便覧』または『履修の手引』※名称は学部により異なることがあります。
- ・各学部の『授業時間割』※名称は学部により異なることがあります。

1. 岡山大学における教育

- 『授業概要（シラバス）』

なお、シラバスは、大学のHPから閲覧することができます。

<https://www.okayama-u.ac.jp/>

→「在学生・保護者の方」→「シラバス」

このWebシラバスは、必要に応じて教員が随時内容を更新します。

シラバスには、授業概要や授業担当教員名の他、ナンバリングコード、授業計画、授業時間外の学習（予習・復習）方法、授業形態、教科書等、成績評価などが記載してあります。シラバスは、皆さんが授業科目を履修する際、準備学習等を進めるための基本となるものです。また、授業の内容を事前に把握できるので、計画的・体系的な授業科目の選択が可能となります。

皆さんが、大学を卒業するためには、それぞれの所属する学部学科等によって決められている教養教育科目及び専門教育科目の卒業要件単位数を満たさなければなりません。

そのために、自分で履修計画を立てなければなりません。まず自分の時間割をつくる必要があります。大学では、これまでと違って自由に授業を選べるわけですから、ひとりひとり違う時間割があることとなります。

受けてみたい授業が決まったら、履修の手続きが必要になりますが、必ず受けなければならない授業（必修科目）などが、学部学科等によって決まっているので、注意してください。

3. 時間割をつくる

時間割と授業概要（シラバス）を見て受講する予定の授業を選びます。

4. 授業の登録

受ける授業が決まったら、学務情報システムから履修科目を登録します。

履修登録の入力期間は、学部により異なりますので、掲示（所属学部の掲示板）に注意してください。

5. 掲示

休講・補講・試験に関する情報などは、掲示によってお知らせします。

夜間開講の教養教育科目については、法学部・経済学部の夜間主コース掲示板で確認するようにしてください。

昼間開講の教養教育科目を履修する場合は、一般教育棟A棟1階の掲示板で確認するようにしてください。

6. その他

教養教育科目について分からないことがあったら、一般教育棟A棟2階の学務企画課教育支援グループ（2番窓口）で相談してください。

2. 岡山大学における学び

岡山大学での学びについて少し理解できましたか？おそらく高校までとは違う印象を持たれたのではないのでしょうか。学ぶ内容が違えば方法も異なります。ここでは、大学の授業のしくみについて説明します。

2-1 学年暦

岡山大学の一年間は、高校と同じ4月から翌年3月までの**年度方式**をとっています。

2024年度の行事予定である学年暦や皆さんに関係する大事なスケジュールは4ページの主要なスケジュールにあります。

2-2 学年と学期

岡山大学では、2016年度から、1学年を4分割する4学期制を導入していますが、夜間主コースでは、1学年を「前期」と「後期」に2分割する**2学期制**を当面の間採用します。多くの授業は、1科目について14回行うことを基本としていて、学期ごとに完結します。

2024年度

学 年		4月 1日 ~ 3月31日 (翌年)
前 期 (4月1日~ 9月30日)	第1学期	4月 1日 ~ 6月 6日
	第2学期	6月 7日 ~ 8月10日
	夏季休業	8月11日 ~ 9月30日
後 期 (10月1日~ 3月31日)	第3学期	10月 1日 ~ 11月28日
	第4学期	11月29日 ~ 2月14日 (冬季休業：12月25日~1月4日)
	春季休業	2月15日 ~ 3月31日

※年度により、各学期の開始・終了日は異なります。学期の開始・終了日については、年度毎に公示します。

2-3 授業日程と授業時限

岡山大学の授業は、1科目14回が基本です。なお、期末試験を行う場合は15回となります。

また、昼間主における1回の授業時間（1時限）は50分で、原則として1日8時限の授業が行われます。時限ごとの授業時刻は次のとおりです。

夜間主コースの9限目・10限目の授業時間は、90分となりますので、注意してください。

1時限目	8:40 ~ 9:30
2時限目	9:40 ~ 10:30
3時限目	10:45 ~ 11:35
4時限目	11:45 ~ 12:35
5時限目	13:25 ~ 14:15
6時限目	14:25 ~ 15:15

2. 岡山大学における学び

	7時限目	15:30 ~ 16:20
	8時限目	16:30 ~ 17:20
	9時限目	17:30 ~ 18:20
	10時限目	18:30 ~ 19:20
夜間主コース	9時限目	18:00 ~ 19:30
	10時限目	19:40 ~ 21:10

なお、授業科目によっては、時限を通して行うものや週2回開講するもの、集中講義で行うものなどがありますので、注意してください。

2-4 単位の基準

大学での学修は単位制度を基本としています。

1単位は、教員が教室等で授業を行う時間及び学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間の合計で標準45時間を要する教育内容をもって構成されています。

ただし、単位数は、個々の授業の種類や形態によって異なります。

岡山大学の教養教育科目については、次の基準により1単位が設定されています。なお、「大学の授業による学修時間」には期末試験に要する時間を含みません。

岡山大学の教養教育科目については、次の基準により1単位が設定されています。

授業の種類・方法	大学の授業による学修時間	授業時間外の学修時間
講義	15時間	30時間
演習	15~30時間	30~15時間
実験	30~45時間	15~0時間
実習	30時間	15時間

通常、講義科目1単位を修得するためには、1回1時間の授業に15回出席し、当該授業に関する自学・自習・レポート作成等を行い、さらに試験等に合格することが必要です。

2-5 成績の評価

岡山大学ではGPA制度を導入しています。GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、欧米で一般的に行われている成績評価制度のことです。

GPA制度の成績の表し方とGP（グレード・ポイント）の換算は次のとおりです。

評語	GP	評点	基準等
A+	欄外の GP算出方法 を参照	90~100点	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
A		80~89点	到達目標を達成し、優秀な成果を収めている。
B		70~79点	到達目標を達成し、良好な成果を収めている。

2. 岡山大学における学び

C		60～69点	到達目標を概ね達成している。
F	0	0～59点	到達目標を達成していない。(単位を授与しない。)
認定	対象外	付さない	① 入学前の既修得単位及び転学、編入学等の既修得単位について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を授与する場合 ② 他の大学等において履修し修得した授業科目の単位又は大学以外の教育施設等における学修について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし単位を授与する場合で、評点により評価しがたい場合
修了	対象外	付さない	本学の開設する授業科目のうち、授業の特殊性に鑑み、評点により評価しがたいもの、若しくは一定の到達度をもって評価し単位を授与する場合
未修得	対象外	付さない	修了の評語をもって合格の評価とする授業科目で不合格(単位を授与しない。)とする場合

GP (グレード・ポイント) 算出方法

$$GP = (\text{評点} - 55) / 10$$

※ただし、評語「F」(不合格:評点60点未満)のGPは0とします。また、「認定」, 「修了」, 「未修得」については、対象外としGPを付しません。

1. GPA制度導入の目的

- ①成績不振の学生をいち早く発見し、アカデミック・アドバイザーの教員を中心に適切な指導を行うこと。
- ②GPAを目安にして学生に履修登録科目数の自主規制を促し、計画的な履修を促すこと。
- ③学生に対して修得単位数だけでなく、個々の単位のレベルアップを図るよう喚起すること。

2. GPAの算出方法

履修登録した科目ごとにGPに単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割って算出します。

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

GPAの実際の計算方法例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	GP (b)	a×b
〇〇学概論	1	95	A+	4	4.0
〇〇学要説	1	85	A	3	3.0
□□学演習Ⅰ	1	55	F	0	0
□□学演習Ⅱ	0.5	70	B	1.5	0.75
△△基礎実験	0.5	90	A+	3.5	1.75
計	4				9.5

2. 岡山大学における学び

前ページの表の学生の場合

履修登録した授業科目の単位数の和 = 4

(履修登録した授業科目の単位数 × 当該授業科目のG P) の和 = 9.5

$$\text{GPA} = 9.5 \div 4 = 2.375 \quad \Rightarrow \quad \underline{2.38}$$

※小数点第3位は四捨五入します。

3. GPAの対象とならない科目

- ・ 評点を示さず、認定または修了によって単位を取得できる科目
- ・ 岡山大学以外で修得した科目を単位として認めたもの

2. 岡山大学における学び

2-6 特別な単位の認定

2-6-1 入学前の既修得単位の認定

下記の者については、大学・短大等における既修得単位が認定されることがあります。詳細については各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

1. 大学または短期大学を卒業あるいは中途大学した者で、新たに第1年次に入学した者
2. 編入学した者

2-6-2 放送大学の修得単位の認定

本学が指定した放送大学の開設科目を修得した場合、単位の認定が認められることがあります。詳細については所属学部の学生便覧を参照してください。

2-6-3 外部検定試験による単位の認定

Linguaskill, TOEIC, TOEFL等の外国語技能検定試験のスコアや成績により、言語科目の単位認定を申請することができます。単位認定基準は、18点～20点のとおりです。

なお、単位認定の申請手続きは、各学部の教務学生担当窓口で行ってください。

2-6-4 留学による単位の認定

岡山大学交換留学プログラム（EPOK）など、本学との交流協定に基づき外国の大学に留学した場合などには、留学先大学での修得単位が本学の修得単位として認定されることがあります。詳細については各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

2-6-5 他の大学・高等専門学校等との単位互換協定に基づく修得単位の認定

本学との単位互換協定に基づき、他大学や高等専門学校専攻科等の授業科目を履修した場合には、他大学等で修得した単位が本学での修得単位として認定されることがあります。

岡山大学では、岡山県内の大学で構成する「大学コンソーシアム岡山」の単位互換協定に参加しています。これらの単位互換制度については、前期は4月第1週頃、後期は7月から9月中旬頃に履修生の募集を行います。募集時期等の詳細については、掲示等でお知らせします。

その他の大学等についても、協定に基づき単位を認定するものがあります。詳細については各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

認定については、転学、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとします。

2023年度入学者・2024年度入学者（夜間主コース）

外国語の種類	単位認定の対象とする外部検定試験	単位認定基準	単位認定の対象とする授業科目の範囲	認定可能な単位数の上限
英語	TOEIC Listening & Reading 又は TOEIC Listening & Reading IP	800点以上	教養教育科目の英語科目のうち、 以下を除く全ての授業科目 英語（ネイティブ） 英語（オラコン） 英語（作文・文法） 英語（読解） 英語（検定）	4単位まで
	----- 実用英語技能検定（英検）	1級		
	----- 国際連合公用語英語検定試験（国連英検）	A級		
	----- TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	554点以上		
	----- TOEFL iBT	75点以上		
	----- IELTS	6.0点以上		
	----- GTEC Academic 4技能	646点以上		
	----- GTEC Academic 2技能	331点以上		
	----- Linguaskill General 4技能	640点以上		
	TOEIC Listening & Reading 又は TOEIC Listening & Reading IP	750点以上	教養教育科目の英語科目のうち、 以下を除く全ての授業科目 英語（ネイティブ） 英語（オラコン） 英語（作文・文法） 英語（読解） 英語（検定）	2単位 まで
	----- 実用英語技能検定（英検）	準1級		
	----- 国際連合公用語英語検定試験（国連英検）	B級		
	----- TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	532点以上		
	----- TOEFL iBT	68点以上		
	----- GTEC Academic 4技能	613点以上		
	----- GTEC Academic 2技能	313点以上		
	----- Linguaskill General 4技能	620点以上		
	ドイツ語	ドイツ語技能検定試験（独検）		
3級			ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本） ドイツ語初級Ⅱ（文法） ドイツ語初級Ⅱ（読本） ドイツ語中級	3単位まで
4級			ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本） ドイツ語初級Ⅱ（文法） ドイツ語初級Ⅱ（読本）	2単位 まで
5級			ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本）	1単位 まで

フランス語	実用フランス語技能検定試験（仏検）	3級以上	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本） フランス語初級Ⅱ（文法） フランス語初級Ⅱ（読本） フランス語中級	4単位まで
		4級	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本） フランス語初級Ⅱ（文法） フランス語初級Ⅱ（読本）	2単位まで
		5級	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本）	1単位まで
中国語	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ） ※5級・6級については、180点以上のスコアを獲得した場合、単位認定の対象とする。	4級以上	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本）	4単位まで
		中国語検定試験（中検）	2級以上	
	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	3級	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） 中国語中級	3単位まで
	中国語検定試験（中検）	3級	中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） 中国語中級	
	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	2級	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本）	2単位まで
	中国語検定試験（中検）	4級	中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本）	
	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	1級	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本）	1単位まで
中国語検定試験（中検）	準4級	中国語初級Ⅰ（読本）		
韓国語	韓国語能力試験	2級以上	韓国語初級Ⅰ－1 韓国語初級Ⅰ－2 韓国語初級Ⅱ－1 韓国語初級Ⅱ－2 韓国語中級	4単位まで
		1級	韓国語初級Ⅰ－1 韓国語初級Ⅰ－2 韓国語初級Ⅱ－1 韓国語初級Ⅱ－2	2単位まで
スペイン語	スペイン語技能検定	4級以上	スペイン語ベーシック1～4 スペイン語ステップアップ	4単位まで
		5級	スペイン語ベーシック1～4	2単位まで

		6級	スペイン語ベーシック1及び2	1単位 まで	
イタリア語	実用イタリア語検定	3級以上	イタリア語ベーシック1～4 イタリア語ステップアップ	4単位まで	
		4級	イタリア語ベーシック1～4	2単位 まで	
		5級	イタリア語ベーシック1及び2	1単位 まで	

- 備考 1 「GTEC Academic 4技能」のスコアのうち、2技能のみを用いて、「GTEC Academic 2技能」の単位認定の対象とすることはできない。
- 2 「Linguaskill General 4技能」のスコアについては、各技能スコアの合計点を用いる。その際、「180+」のスコアは180点として扱い、「NR」「*」のスコアは0点として扱う。

3. 教養教育の学び

3-1 岡山大学ディグリー・ポリシー（DP），教養教育DP要素，学修成果

ディグリー・ポリシー（DP）とは、大学全体や学部・学科等の教育研究上の目的、学位授与の方針を定めたものです。

岡山大学では、大学が育成する人材像を「学位取得のために身につけているべき能力」という面から捉え、7つの5項目から成る大学DPを「学生の目線」で作成しています。さらに各学部では、学部、学科等ごとにもDPを作成していますが、教養教育では教養教育科目を学修することによって育成される人材像（身につけているべき能力）を教養教育DP要素として作成し、大学DPの項目と対応させています。

また、学生が履修する授業科目によって「何ができるようになるか」を明確化するために、観察可能な能力として「学修成果（LCOs = Learner-Centered Outcomes）」とそれに対応する「コア・コンピテンシー」を示しています。

※コア・コンピテンシーとは、教育課程の終了時点で獲得が期待される知識、技術、態度などの能力のことです。岡山大学卒業生が社会で一般的に必要な能力や知識として、12のコンピテンシーに分類しています。

大学DP	教養教育DP要素 (学修目標)	学修成果(LCOs)	学修成果に関連する コア・コンピテンシー
教 養	人間性・倫理観 先人の足跡に学びつつ、豊かな教養の基礎となる人間性・倫理観を身につける	豊かな教養の基礎となる人間性・倫理観を身につけている	倫理観
	創造力・想像力 新たな発想・発見につながる創造力・想像力を磨く	創造・想像のプロセスを通して、新たな発想・発見につなげることができる	問題解決力
	理論的思考・判断力 主体的な問題解決に向けて論理的思考力・判断力を高める	問題に対して論理的解決策を主体的に組み立てることができる	論理的思考力
	幅広い分野への知的関心 自分の目指す専門領域以外の幅広い分野に対して関心を持つ	自分の目指す専門領域以外の幅広い分野に対して関心を寄せることができる	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
	幅広い分野の知的習得 自分の目指す専門領域以外の幅広い分野に関する基礎的知識を身につける	自分の目指す専門領域以外の幅広い分野に関する基礎を身につけている	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
専 門 性	特定分野のための基礎的能力 自分の目指す専門分野のための基礎的学識・技能を身につける	自分の目指す専門分野のための基礎を身につけている	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
情 報 力	情報収集力 多くの情報源の中から、必要とする情報を的確に収集する技能を身につける	自ら進んでエビデンスに基づいた情報を収集することができる	情報リテラシー
	情報活用力 得られた情報を正しく分析・活用する能力を高める	得られた情報を数量的に分析し、適切に活用することができる	数量的スキル
	情報発信力 主張・提案したい情報を適切に発信する能力を身につける	情報の収集・分析・活用から積極的かつ効果的な情報発信ができる	情報リテラシー

3. 教養教育の学び

大学DP	教養教育DP要素 (学修目標)	学修成果(LCOs)	学修成果に関連する コア・コンピテンシー
行動力	主体的行動力 課題の遂行や問題の解決に向けて主体的に行動する力を高める	社会課題に関するテーマを設定し、解決方法を設計できる	問題解決力
	国際感覚 グローバル化に対応した国際感覚を身につける	グローバル社会で、他者と共に生活するための言語的または非言語的な意思疎通ができる	コミュニケーション・スキル
	言語を理解する力 言語の法則を知る能力を身につける	言語の本質を知り、言語を理解することができる	多文化・異文化に関する知識の理解
	言語を運用する力 言語の実際を知る能力を身につける	言語の実際を知り、言語を適切に運用することができる	コミュニケーション・スキル
自己実現力	セルフマネジメント力 目的を達成するために、自らの持てる資質を管理し、適切に運用する力を身につける	目的を達成するために、自らの持てる資質を管理し、適切に運用することができる	自己管理能力
	日常的な自己研鑽力 常に謙虚な姿勢で自らを省察し、自分自身の向上に努める	常に謙虚な姿勢で自らを省察し、自分自身の向上に努めることができる	生涯学習力
	未来を設計する力 自分や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画する	個人および社会発展のために、将来に向けたビジョンと戦略を計画できる	市民としての社会的責任

教養教育では、皆さんが自ら考え行動するために必要な知の基本を培うことに重点が置かれています。そのために、教養教育科目には本学ディグリー・ポリシーに掲げる学士力のうち主として【教養】、【行動力】、【情報力】に関連する多彩な授業科目が開設され、次のような科目区分が設定されています。

教養教育科目には6つの科目区分、すなわち、導入教育科目、知的理解科目、実践知・感性科目、汎用的技能と健康科目、言語科目、高年次教養科目があり、それぞれのテーマ・分野・言語ごとに複数の授業科目が開設されています。

学生の皆さんは、所属する学部学科等において定められている卒業要件に従って、それぞれの科目区分から授業科目を選んで履修し、卒業に必要な単位を取得するとともに、履修した授業科目に関連した教養教育DP要素に掲げる学士力を修得します。

3-2 導入教育科目

導入教育とは高等学校から大学への円滑な移行を促すことや、入学後の教育効果をより高めることを目的とした、正規課程に付随した教育プログラムをいいます。

岡山大学では、導入教育として以下の「全学ガイダンス」「学部ガイダンス」「補習教育」を設定しています。

「ガイダンス」

- 1) 全学ガイダンス（「岡山大学入門講座」、 「キャリア形成基礎講座」）

学部に関係なく、これから本学で学び社会へ羽ばたくために、初年次に修得する全学必修科目です。岡山大学生としてスタートするために必要な知識を得るための「岡山大学入門講座」と、自分・大学・社会を知り人生について考えるための「キャリア形成基礎講座」の2つの授業科目があります。そ

3. 教養教育の学び

それぞれ全7回0.5単位ずつです。いずれの授業科目も、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養－倫理観、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「自己実現力－自己管理能力、生涯学習力、市民としての社会的責任」と主に関連しています。

2) 学部ガイダンス

各学部が所属学生を対象として開講するもので、大学で主体的かつ能動的に学ぶために必要なスタディ・スキルやコミュニケーション・スキルを学修します。この授業科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養－人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「専門性－人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「情報力－情報リテラシー」と主に関連しています。

「学部ガイダンス」は、各学部あるいは学科・課程・コース単位に当該学部所属学生を対象として開講するもので、他学部学生は履修できません。

「補習教育」

高等学校教育と大学教育の円滑な接続を図るため、「初等数学1」、「初等数学2」、「初等物理学1」、「初等物理学2」、「初等生物学1」、「初等生物学2」の6科目を補習教育科目として開講します。これらの科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養－幅広い分野に対する関心、幅広い分野の基礎力」と主に関連しています。

1) 開講期・曜日・時限

第1学期	月曜7・8限	初等数学1, 初等生物学1
第1学期	木曜7・8限	初等物理学1, 初等生物学1
第2学期	月曜7・8限	初等数学2, 初等生物学2
第2学期	木曜7・8限	初等物理学2, 初等生物学2

2) 履修対象者・履修対象学部

高等学校において数学Ⅲ、物理、生物を履修していない全学部の学生を対象とします。また、定員に余裕がある場合は既修者の履修も認めます。

3) 単位数及び成績評価

1授業科目の単位数は1単位とし、「修了」の評語をもって成績を評価して単位を授与します。ただし、卒業要件単位としては算入されません。

4) GPA制・上限制・授業評価アンケート

卒業要件単位外の授業科目として取り扱うため、GPA制・上限制の対象とはしません。また、授業の効果を検証するため、授業評価アンケートの対象とします。

3-3 知的理解科目

現代世界が提示する多様な諸問題への関心を呼び起こし、人類が過去から蓄積してきた知の拠り所への学び(古典知)を通じて、自らと世界とのかかわりを常に生き生きと把握する知的理解力を養います。講義科目には、現代的問題に焦点を合わせた科目と、より広範な基礎的テーマの科目を設定しています。なお、知的理解科目の中に次の3つのグループを設定しています。

「現代と社会」

社会のグローバル化のもとに、急激に変貌する現代社会の具体的実像に触れる。とりわけ、政治・経済・社会・文化・思想・宗教等の分野で進行する知識の断片化を克服し、現代社会の全体像を理解する。

「現代と生命」

科学技術の急速な進歩による生命科学の最先端分野での発展を、その研究の歴史的展開を踏まえて具体的に理解する。また、医療生命科学分野の全体像を把握する。

「現代と自然」

科学技術の急速な進展と自然界の解明の現状を理解する。また、人間による自然環境破壊と環境再生の実像に触れ、自然に対する全体的・原理的理解に努める。

3. 教養教育の学び

3-4 実践知・感性科目

時代と社会をリードする行動力と創造力を生み出し、豊かな感性を育むために、実践知と芸術知を養います。

「実践知」

1) 実践型社会連携教育科目

地域社会の企業、行政、NPO、まちづくり等が直面する様々な課題を取り上げ、その解決のために必要な実践知（市民的教養に裏付けられた判断力、リーダーシップ、チーム力、責任・気概）を養います。実社会の様々な関係者と協働して活動し、問題発見や解決のための技能や態度、素養を培うことができます。

実践知科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養—倫理観、論理的思考力、人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「情報力—数量的スキル、情報リテラシー、問題解決力」と主に関連しています。

学外の現場での活動を実施する場合、時間割に設定されていない時間帯（土日祝など）に授業時間を振り替えたり、学外での正課活動に関する保険への加入を履修要件としたりしていることがあるので留意してください。また、グループワークを重視する科目では、一定人数の受講登録がなければ閉講になることがあります。現場で受け入れてくれる関係者、チームのメンバーに迷惑がかからぬよう、最後までやり抜くことがなにより重要です。

2) 科目のタイプ分け

実践型社会連携教育科目は、その内容によりいくつかのタイプに分けられます。タイプ分けは、1) 社会連携した実践活動の度合い（それに充当する時間数など）、2) その科目の学習環境がグローバルであるか、で判断します。

次表のとおり、全授業時間のうち現場での実践活動の時間の多いものが「Aタイプ」、少ないものが「Bタイプ」となり、さらに、学修する環境が外国や、国内であっても外国人コミュニティで学ぶといった異文化体験の深さにより、A及びBにG（グローバル）またはG+を冠しています。A、B及びG、G+の組み合わせにより、以下に示す①から⑦のタイプがあり、シラバスの授業形態欄に明記されています。タイプの特性を理解したうえで履修計画を立ててください。

◆ シラバスの「授業形態欄」には、以下のいずれかが表示されています。

「該当せず」

- ①Aタイプ（社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い）
- ②Bタイプ（社会連携の実践活動を一部取り入れている）
- ③G+Aタイプ（学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くAタイプ）
- ④G Aタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するAタイプ）
- ⑤G+Bタイプ（学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くBタイプ）
- ⑥G Bタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するBタイプ）
- ⑦Cタイプ（実習や演習として実践的だが社会連携したものでない）

表. タイプ分けの基本

判断基準	記号	解説
社会連携した実践活動の度合い	A	a) 地域や企業等の現場に出向き、 b) その時間数が全授業時間数の1/3以上 c) 成果報告会を開催する（学外の関係者が参加し、授業自体の評価をすることが望ましい） の3条件を満たす。
	B	地域や企業等の現場に出向く、または現場の課題を抱える当事者とのディスカッション等の活動が1回以上ある。ただし、単に外部講師が講義するだけの授業は対象としない。

3. 教養教育の学び

判断基準	記号	解説
学修環境としてのグローバル要素の付加	G ⁺	社会連携して学修する現場が外国または国内の外国人コミュニティであるなど、異文化の環境に深く入っていく授業。
	G	留学生と日本人学生が協同することにより異文化理解を進めつつ学ぶ授業、海外とのテレビ会議など多言語で討論が行われる授業など。

「芸術知」

「芸術知」は「実践知・感性」関連の授業科目であり、教養教育科目授業時間及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。この科目群は、優れた芸術作品の能動的な鑑賞やアート創造の現場への参加等を通して、創造性と豊かな感性を養います。

芸術知科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養－倫理観，論理的思考力，人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」，「行動力－問題解決力，コミュニケーション・スキル」と主に関連しています。

3－5 汎用的技能と健康科目

学問の追求に加えて、学生生活を充実させて社会へ向かうために必要な知識・技術及び能力を養います。また、これらの土台ともいえる健全な心身を築きます。

「情報教育」

大学教育における研究や教育をはじめ、社会人として必須である情報リテラシー技術やICT (Information & Communication Technology) 活用能力を修得します。

1) 情報リテラシー系科目

情報リテラシー系科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「情報力－数量的スキル，情報リテラシー」に加え、「教養－人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」，「行動力－問題解決力」に関連しています。

情報化社会においてインターネットを有効に活用するための知識、情報セキュリティ被害にあわないためのセキュリティ対応能力、個人情報漏洩防止のための知識などの幅広い情報リテラシー能力と正しい情報マナーを身につけることを目標にします。

「情報リテラシー」系科目は、以下の3科目により構成し、すべて実習を伴う授業です。

- ① 情報処理入門1 (情報機器の操作を含む) では、学生生活に必須の各種ICTサービスの活用方法，ICT機器の設定方法，個人情報の安全・安心な取り扱い能力，情報セキュリティ被害にあわないセキュリティ対応能力等の情報リテラシー能力を修得します。
- ② 情報処理入門2 (情報機器の操作を含む) では、マイクロソフト社のワードプロセッサ，表計算ソフト，プレゼンテーション作成ソフトの利用方法を学習します。大学生活に必要なレポート作成，数値解析やプレゼンテーションのための資料の作成を，PCを用いた実習形式で修得します。
- ③ 情報処理入門3 (情報機器の操作を含む) では，ICTのハードウェア，ソフトウェア及びインターネットに関する高度な技術を学修します。これにより，情報機器，インターネットをより有効に利活用するための情報リテラシー能力の向上を図ります。

上記の科目は、授業における課題の提供や小テストの実施，事前，事後の学習に授業支援システム“Moodle”を利用します。また，個人所有のPCを使用しますので，事前にPCの環境設定を完了して，授業に臨んでください。なお，情報処理入門1では，入学後に配付されるパスワード通知書や教科書付属の日経パソコンEduライセンスカードを使用します(教科書についてはWebシラバスで確認してください)。

3. 教養教育の学び

情報リテラシー科目のうち、「情報処理入門1（情報機器の操作を含む）」は全学必修科目です。この授業科目は、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。単位を修得できなかった場合の再履修は、1年次の第4学期に1クラス開講しますので指定時間に再履修してください。

本科目は教職課程で必須の科目であり、最低2科目、2単位の取得が必要になります。

2) ICT (Information & Communication Technology) 系科目

ICT系科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「情報力ー情報リテラシー、数量的スキル」と主に関連しています。これにより、インターネットの安全・安心な活用、情報機器の効率的な活用のための知識が修得できます。

ICT系科目は、情報リテラシー系科目を発展した、より高度な技術を学習します。主に1年次と2年次に向けて開講します。

「数理・データサイエンス」

今日、情報通信技術の普及により大量のデータが収集・蓄積されていますが、それらは活用されなければ意味をもつ情報とはなりません。このようなデータを対象とする学問分野がデータサイエンスです。

数理・データサイエンス科目のうち、「数理・データサイエンスの基礎」は、現代の基礎教養として欠かせない情報学・統計学・数理科学の3つを体系的に学ぶためのものであり、授業では、データサイエンスの基盤となる統計および数理の基礎と、データサイエンスの応用事例を修得し、さらに機械学習の概念を学んで、データサイエンスの果たす役割を概観します。この科目に関連した「数理・データサイエンスの基礎演習A」では実際にソフトウェアを利用し基礎で学んだ概念を学びます。また、「データ表現とアルゴリズム」ではデータサイエンスに必要な数理的な知識、アルゴリズムの基礎知識をソフトウェアを利用しながら学びます。

さらに「統計学の基礎」と「データ分析の基礎」が開講されており統計学の基礎を学びます。また、「数理という道具を手に入れよう」では、数学がどのように有用な道具になりうるかを体験的に学びます。

数理・データサイエンス科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養ー倫理観、問題解決力、論理的思考力、人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「情報力ー情報リテラシー、数量的スキル」、「行動力ー問題解決力」と主に関連しています。数理・データサイエンス科目のうち、「数理・データサイエンスの基礎」は、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。

「キャリア教育」

学生生活を充実させるとともに、社会人になるうえで必要な知識・能力を修得します。

特に「キャリアデザイン」という複数のテーマ別授業科目があります。他者とのコミュニケーションを円滑にできるようになるための「Ⅰ. コミュニケーション力に磨きをかける」や「Ⅱ. つなげる！つながる！みんなのキャリア」、社会にある様々な課題解決に取り組むための「Ⅲ. プロジェクトを企画し実行する力を養う」、企業や業界に関する知識を獲得して将来設計に生かすための「Ⅳ. 企業を知り、業界を知る」や「Ⅴ. 職業選択と自己実現」などで構成されています。

これらの授業科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち「情報力ー情報リテラシー、数量的スキル」、「行動力ー問題解決力」、「自己実現力ー自己管理力、生涯学習力、市民としての社会的責任」と主に関連しています。

「健康・スポーツ科学」

生命・保健科学関連の授業科目で、教養教育科目授業時間表及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、主に「教養ー人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「教養ー問題解決力」に関連しています。

1) 健康・スポーツ科学

健康・スポーツ科学は抽選があり、1～4学期に指定された時限で開講します。

3. 教養教育の学び

健康・スポーツ科学Cは抽選がなく、通年授業で、毎月1回、水曜日10、11限に開講するスポーツ医科学の専門家によるオムニバス形式の授業です。

- 2) するスポーツ演習 ※抽選あり
通常時間帯に各種スポーツ実技に加えて、e-ラーニング (Moodle) を活用して運動プログラムを作成し、授業以外においても運動を実践する授業です。初回の授業はシラバス記載の場所でおこないます。
- 3) みるスポーツ演習 ※抽選あり
みるスポーツ演習B-IおよびB-IIは、3、4学期連続履修を前提とした授業です。開講は月曜日7、8限です。調査演習形式の実践型科目です。
みるスポーツ演習は、みるスポーツに関わる調査研究テーマを履修者が設定し、テーマに基づきグループを編成し、調査計画を立案し、実際に調査に出かけ、報告書をまとめます。
- 4) 支えるスポーツ演習 ※抽選なし
支えるスポーツ演習Aは、特定の高校において運動部活動の指導・支援をおこなう実践型科目です。履修希望者は初回のオリエンテーションに必ず参加してください。

「アカデミック・ライティング」

ライティングは、専攻分野を問わず、すべての知的活動の基本的な技量、コミュニケーション能力となります。さらに、学術的な場面のみならず、学内外の日常的な場面においても中核となる能力です。したがって、ライティングにより獲得される思考力とコミュニケーション能力は、大学を離れたのちにも生涯を通して極めて重要な拠り所となるものと考えられます。

アカデミック・ライティングでは、論文やレポートを書くための技量のみではなく、思考力を伸ばしたり論理的に表現したりすることを学び、自分で論理的に思考したことを書くことにより表現するコミュニケーション能力を養うことを目的としています。

この科目では、以下のように論証型論文・レポートの基礎を理解し実践できるようになることを目標としています。

- ・自分の考えや意見などを正確に、意図した相手に伝える文章を書くことができる。
- ・事実や根拠などを明らかにした論理的な文章を書くことができる。
- ・文字や表記に注意して文章の体裁を整えることができる。

これらのライティングの能力は、教員の細やかな指導と学生の書き直しをする反復作業によってゆっくりと醸成されます。そこでは教員・学生間の対話と信頼関係が必要であり、ディスカッションや相互評価が不可欠な活動となります。

なお、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養－論理的思考力」、「行動力－コミュニケーション・スキル」、「情報力－情報リテラシー、数量的スキル」と主に関連しています。

3-6 言語科目

言語の深い修得を通じて、言語の持つ価値や世界観を理解し、グローバル社会を洞察する力や社会に情報を発信するコミュニケーション力を養う。

「英語」

英語には、英語（ネイティブ）、種別英語、基礎英語、プレ上級英語、上級英語があり、各学部学科の卒業要件に従って履修することになります。

言語科目の英語は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「行動力－多文化・異文化に関する知識の理解、コミュニケーション・スキル」と主に関連しています。

3. 教養教育の学び

1) 英語 (ネイティブ)

英語 (ネイティブ) は、1年次に開講されます。ネイティブスピーカーが英語のみで行う授業で、英語コミュニケーション能力を身につける機会を提供します。

単位未修得による再履修は、授業時間割及びシラバスの指示に基づき、希望する科目の担当教員の履修許可を受けて履修してください。

2) 種別英語

種別英語は、英語教員が担当する授業で、2年次に開講され、4種別があります。一度履修し、単位未修得となった場合の再履修は、授業時間割及びシラバスの指示に基づき、希望する科目の担当教員の履修許可を受けて履修してください。

授業科目名	授業概要
英語 (オラコン)	英語のオーラルコミュニケーション (リスニング, スピーキング) 能力を伸ばすことを目的とします。ディクテーション, コンプリヘンション, ディベート, ディスカッション等の幅広い内容があります。教材としては、テレビ・ラジオのニュース, 映画等も含まれます。
英語 (作文・文法)	既習の文法事項を復習し、定着させつつ、英語による表現能力の向上をはかることを目的とします。 論文, エッセイ, 手紙, E-mail等の書き方から日常会話に近い口語的表現の指導までが含まれます。
英語 (読解)	人文分野, 社会分野及び自然分野の教材を用いて、英語を読む能力を磨くことを目的とします。教材としては、言語, 歴史, 異文化理解, 社会科学, 自然科学等に関するエッセイやインターネット上の情報, あるいは新聞, 雑誌等の時事英語, 科学技術英語や医療英語の教科書等も含まれます。
英語 (検定)	実用英語検定, TOEIC, TOEFL等, 外部検定試験に合わせた練習を行い、実用的な英語力の養成を目的とします。教材としては、これらの試験に対応した問題集等も含まれます。

3) 基礎英語 ※ 同一名科目の繰り返し履修可

基礎英語は、大学入学までの英語学習時間が不足した学生のための授業です。「修了」の評語をもって単位を授与し、卒業要件単位としては算入されません。

4) プレ上級英語, 上級英語 ※ 同一名科目の繰り返し履修可

プレ上級英語, 上級英語は、学力はあるがもう一度英語を学び直したい学生を含め、ステップアップを目指す学生のために発展的な内容を教えることをねらいとしています。

履修を希望する学生は、必ず最初の授業に出席し、担当教員から履修の許可を受けてください。

「初修外国語」

初めて学ぶ外国語では、7つの言語が開講されています。

「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」の「初級」は夜間開講, それ以外の授業は昼間開講です。

ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語, ロシア語, スペイン語, イタリア語

言語科目の各初修外国語は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、初級 (またはベーシック) については「教養—論理的思考力」, 「行動力—多文化, 異文化に関する知識の理解, コミュニケーション・スキル」と主に関連しています。また、中級については「行動力—多文化, 異文化に関する知識の理解, コミュニケーション・スキル」, 「自己実現力—生涯学習力」と主に関連しています。

■[夜間主コース時間帯開講の初修外国語(ドイツ語, フランス語, 中国語の「初級」)]

初級

初めて履修する場合は、授業時間表の指定及びシラバスの指示に基づいて、前期と後期を通じて同一科目・時限・担当教員の授業科目 (前期=初級Ⅰ, 後期=初級Ⅱ) を履修してください。

3. 教養教育の学び

■[昼間開講の初修外国語(韓国語「初級」および「中級」、ドイツ語、フランス語、中国語の「中級」)]

1) 韓国語初級

ア. 初めて履修する場合は、教養教育科目授業時間表の「履修対象の学部、学科等」欄およびシラバスの指示に基づいて、原則として第1学期から第4学期まで同一クラス、つまり同一科目・担当教員の授業科目(第1学期=初級Ⅰ-1, 第2学期=初級Ⅰ-2, 第3学期=初級Ⅱ-1, 第4学期=初級Ⅱ-2)を履修してください。

なお、1年次生を対象に4月に履修説明会を実施します。履修説明会の際に履修希望調査を行い、第1学期に開講される科目はそれに基づきクラス分けを行いますので、履修を希望する新入生は必ず参加してください。履修説明会に参加しないと、履修ができない場合があります。【動画にてオンデマンド配信】

イ. 2年次生以上が月曜日および木曜日に週2回開講される「初級」授業の履修を希望する場合には、1年次生のクラス分けの結果、定員に余裕があるクラスに限り、授業担当教員の許可を得れば履修することができます。火曜日又は金曜日に開講される科目は事前のクラス分けを行いませんので、直接履修登録することができます。

ウ. 2つの授業タイプがありますので選んで履修してください。

【1】50分授業を週2回行う授業：このタイプの授業は、同じ語種の下記【2】の授業との同時履修はできません。また、同じ語種の下記【2】の科目を単位修得している場合も履修できません。詳細は時間割表ページ開講授業科目一覧の重複履修欄を参照してください。

【2】50分授業×2時限を週2回行い集中的に学ぶ「インテンシブ」の授業：このタイプの授業は、同じ語種の上記【1】の授業との同時履修はできません。また、同じ語種の上記【1】の科目を単位修得している場合も履修できません。詳細は時間割表ページ開講授業科目一覧の重複履修欄を参照してください。

注意：対象学生が指定されている場合はその授業タイプしか履修できません。

2) 中級 ※ 同一科目の繰り返し履修可

1年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。

履修を希望する者は、初回の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

■[昼間開講の初修外国語(ロシア語・スペイン語・イタリア語)]

ベーシック(週1回のみ開講)

ア. 開講曜日・時間帯は以下の通りです。

ロシア語ベーシック1～4：火曜3限・4限

スペイン語ベーシック1～4：月曜7限・8限

イタリア語ベーシック1～4：金曜7限・8限

イ. 再履修(一度履修したが、単位修得できなかった)の場合には、翌年度の同一授業科目を履修してください。

3-7 高年次教養科目

専門的素養を習得した3, 4年次生(高年次生)に対して、専門教育以外に必要とされる知識や能力を与える教養教育科目を高年次教養科目として設定し、学生の習熟度と関心に応じた段階的教養教育を実施します。

高年次教養科目の授業は、基本的に各学部の専門教育の時間帯に実施されます。

履修に当たっては、次の各事項に留意してください。

1) 一部の科目については、開講学部以外の学生の履修を認めています。

所属学部が開講している以外の「高年次教養科目」を履修する場合、修得した単位を教養教育科目の卒業要件にどのように算入するか事前に所属学部の掲示板等でよく確認して履修してください。

3. 教養教育の学び

- 2) 指定された一部の科目については、教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、事前に履修希望登録を行い、履修希望者多数の場合には、抽選を実施し履修者を決定します。開講学部以外の学生で履修を希望する場合は、必ず登録してください。登録期間や方法の詳細については、一般教育棟A棟の掲示板を確認してください。

4. 授業の履修手続き

大学の授業を受講するためには、「履修登録」の手続きを行う必要があります。「この授業科目をうけますよ。」という意思表示する手続きのことです。高校では決められた時間割どおりに学習しますが、大学では、皆さんの意思で、学習したい授業科目を選択できる「選択科目」があり、一定の範囲の自由度があります。もちろん、卒業や資格取得にはこの授業科目の単位が絶対必要という「必修科目」がありますから、注意が必要です。

また、履修に際しては、いろいろなルールがあります。以下の説明をよく読んで、皆さん自身の責任で履修の制度を確認し、学習目的に沿った授業科目を選択してください。履修制度の勘違いや、登録漏れなどによって、進級や卒業ができなかったり、卒業時期が延びることもありますから気をつけてください。

履修登録は、学期毎に、学務情報システムから行います。

4 - 1 履修登録に必要なもの

- 岡大ID及びパスワード（入学時に大学から配布します。）
- 教養教育科目授業時間表
- 教養教育科目シラバス（URL：https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html）

4 - 2 履修登録の方法

皆さんは、各自の履修計画に基づいて、履修しようとする授業科目を、皆さん自身が登録することになります。各自のパソコン・スマートフォン等でも登録できます。履修登録の方法については、「学務系システム利用の手引き」で確認してください。登録期間は、所属学部で異なりますので、注意してください。

4. 授業の履修手続き

4-3 教養教育科目の抽選について

昼間開講の教養教育科目では、教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、授業内容に応じて履修者数の上限を定め、抽選により授業開始前に履修者を決定する科目があります。

なお、科目区分毎に実施方法や留意事項が異なります。詳細は以下の各ページを参照してください。

- ・ 「知的理解科目」，「実践知・感性科目」，「汎用的技能と健康科目」・・・【See→23 頁】
- ・ 「言語科目（初修外国語）」・・・【See→29 頁】
- ・ 「高年次教養科目」・・・【See→30 頁】
- ・ 「他学部が開講する専門教育科目で教養教育科目となるもの」・・・【See→34 頁】

「知的理解科目」，「実践知・感性科目」，「汎用的技能と健康科目」の抽選

- 1) 「知的理解科目」，「実践知・感性科目」，「汎用的技能と健康科目」の抽選登録時期は以下のとおりです。詳細についてはその都度掲示しますので、必ず確認してください。

抽選登録時期

第1学期開講科目：

（新入生以外）前年度の3月上旬～3月中旬

（新入生）4月上旬の教養教育科目についての抽選・クラス分け説明会にて登録方法・登録期間の説明を行います。【オンデマンド配信】

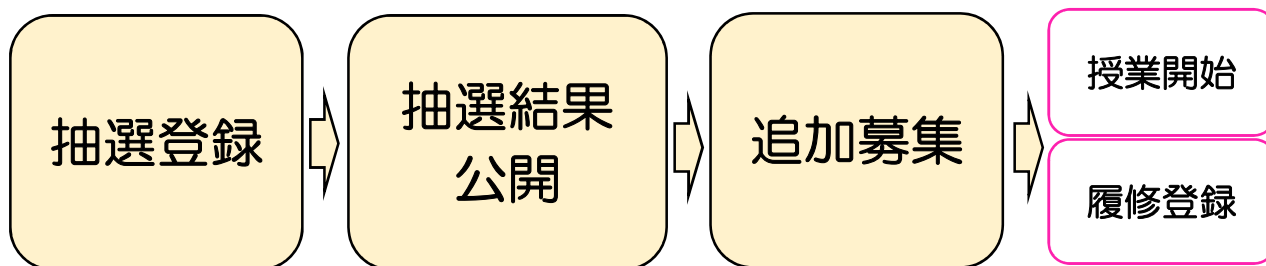
第2学期・夏季集中開講科目：

5月中旬～5月下旬

第3，第4学期・冬季集中・春季集中開講科目：

8月下旬～9月中旬（第3学期と第4学期の開講科目については同じ時期に抽選登録します）

- 2) 抽選の流れは以下のとおりです。



時間割やシラバス等を確認し、履修を希望する抽選対象科目が決まったら、学務情報システムから抽選登録してください。学外からも登録可能です。抽選登録の手順については、掲示や「学務系システムの手引き」を参照してください。（※スマートフォンからも登録可能です。）

抽選結果公開後、当選者が定員まで達していない全ての科目について、学務情報システムから**先着順**で追加募集を行います。（授業担当教員へ直接、追加募集実施の有無等の問い合わせはできません。）

抽選に当選した科目は、結果公開の時点で自動的に履修登録されます。また、追加募集で当選した科目は、即時で履修登録されます。

抽選で当選した科目は、履修削除できません。（追加募集で登録した科目は、追加募集期間終了時に履修削除できなくなります。）抽選登録を行う時点でシラバスをよく確認し、自身が履修を希望する科目のみを抽選登録するようにしてください。

やむを得ず当選した抽選対象科目を削除する必要がある場合は、所属学部の教務担当窓口にご相談してください。

4. 授業の履修手続き

留意事項

- 1) 「知的理解科目」, 「実践知感性科目」, 「汎用的技能と健康科目」の抽選対象科目は、抽選で当選した学生あるいは追加募集で当選登録した学生以外は履修できません。(卒業・進級等の事情により、やむを得ず当選していない教養教育科目抽選対象科目の履修が必要な場合は、所属学部の教務担当窓口にご相談してください。)
- 2) 抽選対象は以下のとおり、科目の開講曜日によって異なります。
2024年度入学生：月曜日・木曜日開講の科目（火曜日・金曜日開講の科目は抽選登録できません。ただし、追加募集には登録可能です。）
2023年度入学生：火曜日・金曜日開講の科目（月曜日・木曜日開講の科目は抽選登録できません。ただし、追加募集には登録可能です。）
- 3) 必修となっている英語科目が割り当てられている時間帯の科目には抽選登録できません。ただし、追加募集には登録可能です。
- 4) 「知的理解科目」, 「実践知・感性科目」, 「汎用的技能と健康科目」であっても抽選を行わない科目があります。

4 - 4 履修登録のルール

(1) 教養教育科目授業時間表

「教養教育科目授業時間表」は、教養教育で開講される全ての科目について記載しています。教養教育では、さまざまな科目が開講されています。各科目によって履修対象や授業形態が異なりますので、授業時間表及びシラバスをよく見て履修登録を行ってください。

(2) 全学部共通の注意事項

教養教育科目全体の履修のルールや注意事項について確認しましょう。

① 重複履修の禁止

- (1) 既に修得した授業科目を再度履修登録してはいけません。ただし、一部の授業科目では重複履修が認められています。
- (2) 同じ授業科目名の授業は、担当教員や授業内容が異なっても、重複履修することはできません。
- (3) 同一授業時間に開講される複数の授業科目を重複して登録することはできません。
- (4) 上記 (1), (2)にかかわらず、するスポーツ演習, みるスポーツ演習, 支えるスポーツ演習, は同一名の授業科目でも重複履修が可能です。また、言語科目の中にも重複履修できるものがあります。

② 昼間授業の受講について

夜間主コースの学生は、学部の定めるところにより、昼間開講の教養教育科目を履修することができます。

4. 授業の履修手続き

(3) 各科目の履修上のルール

① 学部ガイダンス科目

各学部あるいは学科・課程ごとに当該学部所属学生を対象として開講されます。シラバス及び掲示等の指示に従って履修してください。

② 「知的理解科目」、「実践知・感性科目」、「汎用的技能と健康科目」の内、英語で行われる科目

授業で使用する言語が英語の科目については、教養教育科目授業時間表（昼間用の「教養教育科目授業時間表」）の備考欄に「英語で行われる科目」と記載しています。

この科目は英語力について受講要件がある場合がありますので、必ずシラバスを確認してください。

(4) 他学部が開講する専門教育科目の履修について

各学部が開講する専門教育科目のうち、「学部開講専門教育科目一覧表」（専門基礎科目・専門科目）に記載する授業科目は、全ての学部の学生を履修対象として開講しています。

この専門教育科目を開講学部以外の学生が履修し単位を修得した場合は、当該一覧表に記載のとおり教養教育科目の授業科目として取り扱われます。履修に当たっては、次の各事項に留意してください。

- (1) 開講学部、学期、曜日・時限および教養教育科目への対応についてよく確認の上、間違いのないようにしてください。（専門基礎科目・専門科目として履修する講義番号と教養教育科目として履修する講義番号が異なりますので、注意してください。）
- (2) 指定された一部の科目については、教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、事前に履修希望登録を行い、履修希望者多数の場合には、抽選を実施し履修者を決定します。
開講学部以外の学生で履修を希望する場合は、必ず登録してください。
なお、履修希望登録期間や詳細な方法については、一般教育棟A棟1階の掲示板を確認してください。
また、新入生の第1学期及び10月入学の新入生の第3学期については、履修希望登録の対象となる科目はありません。
- (3) 授業計画等を確認する場合は、シラバスを参照してください。

5. 受講上の注意

授業を受ける際に知っておかなければならないことを説明します。知らないばかりに授業を受けられなかったり、必要な連絡ができなかったり、学生生活上の必要な支援が得られなかったり、さまざまな不都合が生じることになります。受講上の基本的な注意については、特に確認しておきましょう。

5-1 教室

夜間主コースの授業は、主に文学部・法学部・経済学部講義棟を使用して開講されますが、学部や情報統括センターの教室を使用する場合がありますので注意してください。

5-2 授業に関する連絡

教養教育科目に関するいろいろな連絡は、次の方法で行われますので、必ず定期的に確認してください。

夜間主コース掲示板・教養教育掲示板

教養教育関係授業に関する連絡は、文学部・法学部・経済学部講義棟掲示板及び一般教育棟A棟1階掲示板を定期的に確認してください。

5-3 教室変更

授業開始後は、受講者数の増減に伴い、教室を変更することがあります。教室変更については、HP (<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/timetableindex.html>) 及び一般教育棟A棟1階掲示板を必ず確認してください。

5-4 休講・補講

授業を休講する場合及びそれに伴う補講を行う場合は、一般教育棟A棟1階掲示板または授業担当教員から Moodle 等で通知します。

5-5 公欠・準公欠・その他の欠席

(1) 公欠

以下の場合は、公欠として認められます。手続きは、所属学部の教務学生担当窓口で行ってください。

- ① 気象警報・交通機関の運休による欠席
- ② 親族が死亡したことによる欠席
- ③ 感染症に罹患したことによる欠席
- ④ 弾道ミサイルの落下より、通学が困難となったことによる欠席

【See→38 頁「学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて」】

(2) 準公欠

以下の場合は、準公欠として認められます。手続きは、所属学部の教務学生担当窓口で行ってください。

- ① 裁判員制度に基づき裁判所へ出頭する場合、その他証人、参考人等として裁判所その他官公署へ出頭することによる欠席
- ② 骨髄移植のために骨髄液等の提供を行う場合等の欠席

5. 受講上の注意

③災害ボランティア活動に伴う欠席

(対象となる災害は公示しますので、掲示又はホームページにより確認してください。)

【See→38 頁「学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて」】

(3) その他の欠席

公欠や準公欠とならない事由(主に、以下の表に掲げるもの)により授業を欠席する場合は、授業の欠席を届け出る際に、48ページに掲載している様式を使用することができます。(ただし、所属学部・研究科等により授業欠席の取扱い等が別途に定められている場合は、それに従ってください。)

この欠席届を提出する場合は、記入した後、必要に応じて関連書類を添付の上、**授業担当教員あてに直接提出してください。**

この欠席届の提出にかかわらず、成績評価に当たっての配慮を行うかどうかについては、各授業担当教員の判断に委ねられています。**この欠席届の提出により、授業担当教員による成績評価における配慮を確約するものではありません。**

【欠席届を使用することができる主な授業欠席の事由】

本学の教育施設以外で実施する授業等	教育実習等	教育職員免許状又は保育士資格の取得のために必要な実習をいう。
	介護等の体験	教育職員免許状(小学校及び中学校免許)の取得のために必要な体験をいう。
	インターンシップ実習	本学の開講する授業で、単位認定を行う就業体験をいう。
	学外研修等	学部・研究科等において実施する学外研修及び学外施設見学等をいう。
集中講義	授業実施期間中における集中講義をいう。	
病気又はけが	学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて(平成21年9月16日学長裁定)第4に規定する、学生が感染症に罹患した場合等の取扱いによらない病気又はけがをいう。	
課外活動	岡山大学公認サークルの活動に伴う大会等への出場をいう。	
就職活動	授業実施期間中における就職活動をいう。	

5-6 レポートの提出

(1) レポートの作成

「授業科目名、担当教員名、学部、学科、学生番号、氏名」をレポートの表紙にわかりやすく記入してください。レポートが複数枚になる場合は、ホッチキスで留めて提出してください。

(2) レポート作成上の注意

レポートの中で他人のアイデアを引用する場合は、**適切な引用や出典参照**をしないと「剽窃(ひょうせつ)行為」とみなされます。**「剽窃」とは、「他人のアイデアを自分のものとして使用する行為」**で、以下のような具体例があります。

- ・書籍、論文、インターネット上の文章、データ、写真、絵、図、チャート等、書かれたものや、口頭で示された他人の意見や構想を、適切な引用や出典参照をしないで、**写して(コピー&ペーストして)自分のものとして**、レポート・論文・発表等で使用すること
- ・書籍、論文、インターネット上の文章、データ、写真、絵、図、チャート等、書かれたものや、口頭で示された他人の意見や構想を、適切な引用や出典参照をしないで、**少し言い換えたり、まとめたりして**、自分のものとして、レポート・論文・発表等で使用すること
- ・レポートや論文、宿題などの成果物を、**他人に作成してもらい**、自分のものとして使用すること

5. 受講上の注意

また、他人ではなく自分が書いたものであっても、ある授業で提出したレポートを他の授業で再度提出することは、学問的倫理に反するのでやめましょう。

- ・学習・教育における生成A I に利用について、生成A I が作成した文章やプログラム等の出力結果をレポートや論文の執筆、試験にそのまま使うことは、剽窃や不正行為に当たると認定されることがあります。生成A I の使用を限定したり禁止したりする指示は授業科目によって異なりますので、使用については担当教員の指導に従ってください。

(3) レポートの提出期限, 提出場所

- ① 提出方法については、担当教員からの指示に従ってください。
- ② 指示された提出時間・期限を過ぎた場合、受理できませんので注意してください。
- ③ 提出場所が「一般教育棟」と指示された場合は、一般教育棟A棟2階学務部前の廊下にある「レポートボックス」に提出してください。設置時間は、平日8:30~17:00です。

レポート表紙

/
授業科目名
授業担当教員名
テーマ
学部・学科
学生番号
氏名



学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて《概念図》

公欠となる事項

1 気象警報・交通機関の運休

ケース①:
気象警報のうち、
(1)暴風警報
(2)暴風雪警報
(3)大雪警報(三朝を除く。)
(4)特別警報
のいずれかが発表されると…
ケース②:
教育担当理事の判断による休講

大学は休講(※1)

この場合、課外活動についても全て禁止

後日、補講を実施

※1 「休講」とは… 授業を取りやめること。

ケース③:
休講の対象とならない気象警報、交通機関の運行休止により通学が困難となった…

届け出ること、**公欠**

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

2 忌引き

学生の親族に不幸が…
ケース①: 配偶者
ケース②: 1親等(父母、子)
ケース③: 2親等(祖父母、兄弟姉妹、孫)

届け出ること、**公欠**

①配偶者 死亡日から(または葬儀等が行われた日を含む)連続7日以内
②1親等 死亡日から(または葬儀等が行われた日を含む)連続7日以内
③2親等 死亡日から(または葬儀等が行われた日を含む)連続3日以内

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

3 感染症

学生が、感染症に罹患し、出席停止となったら…
・インフルエンザ
・麻疹 など
※特定の感染症に限る。

届け出ること、**公欠**

医師の発行する病名・罹患期間の記載された診断書(治療証明書)に基づき、罹患期間＝公欠期間とする。

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

インフルエンザ、麻疹などの集団発生の場合、感染拡大防止の措置として…

大学は休業(※2)

感染症罹患者の発生に伴い、感染症の感染拡大を防止する目的で行う休業措置については、本学の危機管理対策に基づくものとする。

休業となった期間の授業の取扱いは、その都度、学長及び教育担当理事等で協議の上、学長が決定するものとする。

※2 「休業」とは… 授業のみならず、研究活動についても行わないこと。原則として、大学への立ち入りを禁止する。

4 その他特別の事情

ケース①:
アラートが発信され、岡山県内に弾道ミサイルが落下した場合
(三朝地区の場合は、鳥取県内)

大学は休講(※1)

この場合、課外活動についても全て禁止

後日、補講を実施

※1 「休講」とは… 授業を取りやめること。

ケース②:
休講の対象とならない地域に弾道ミサイルが落下し、学生が通学に利用する交通機関の運行休止等により通学が困難となった場合

届け出ること、**公欠**

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

準公欠(※3)となる事項

1 裁判員制度

2 その他証人、参考人等として裁判所その他官公署へ出頭する場合

ケース①:
辞退せず、裁判員制度に基づき裁判所へ出頭したら…
ケース②:
証人や参考人等として、裁判所その他官公署へ出頭したら…

届け出ること、**準公欠**(※3)

①出頭したことの証明書を添付
②当該用務に従事した期間の証明書を添付

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

3 骨髄移植のための骨髄液提供等

ドナー候補者又はドナーとなり、検査、入院又は諸手続等のために医療機関へ赴く場合は…
※親族以外に提供する場合に限る。

届け出ること、**準公欠**(※3)

(財)骨髄移植推進財団の発行する証明書を添付

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

4 災害ボランティア活動

災害ボランティア活動に従事する場合は…
※学期当たり、最大7日間(往復に要する日数を含む。)を限度とする。
※対象となる災害は、公示する。

事前の申請により、**準公欠**(※3)

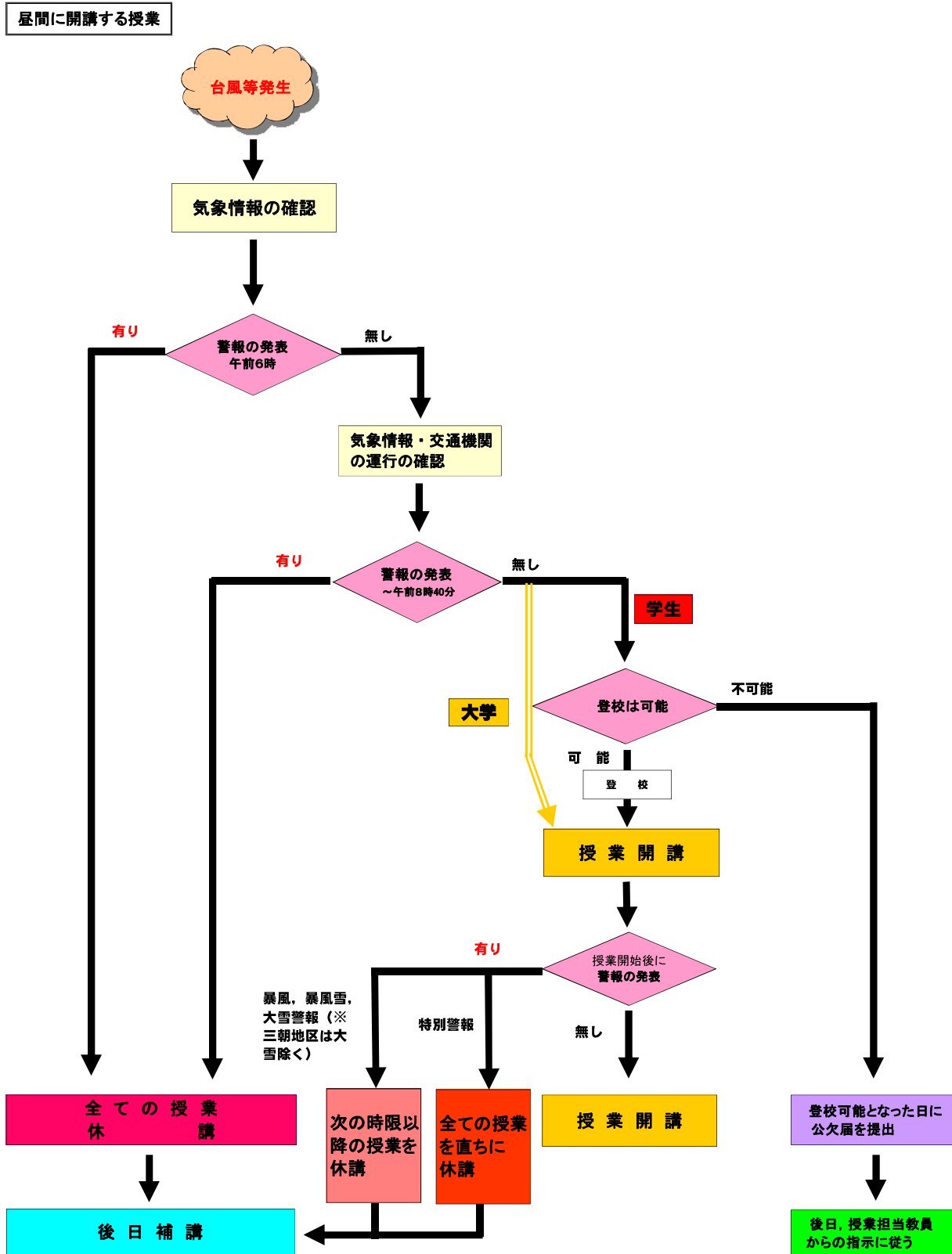
①保護者等及び指導教員等の了承を得た上で、事前に、申請書等を提出
②ボランティア活動終了後、ボランティア活動報告書の提出

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

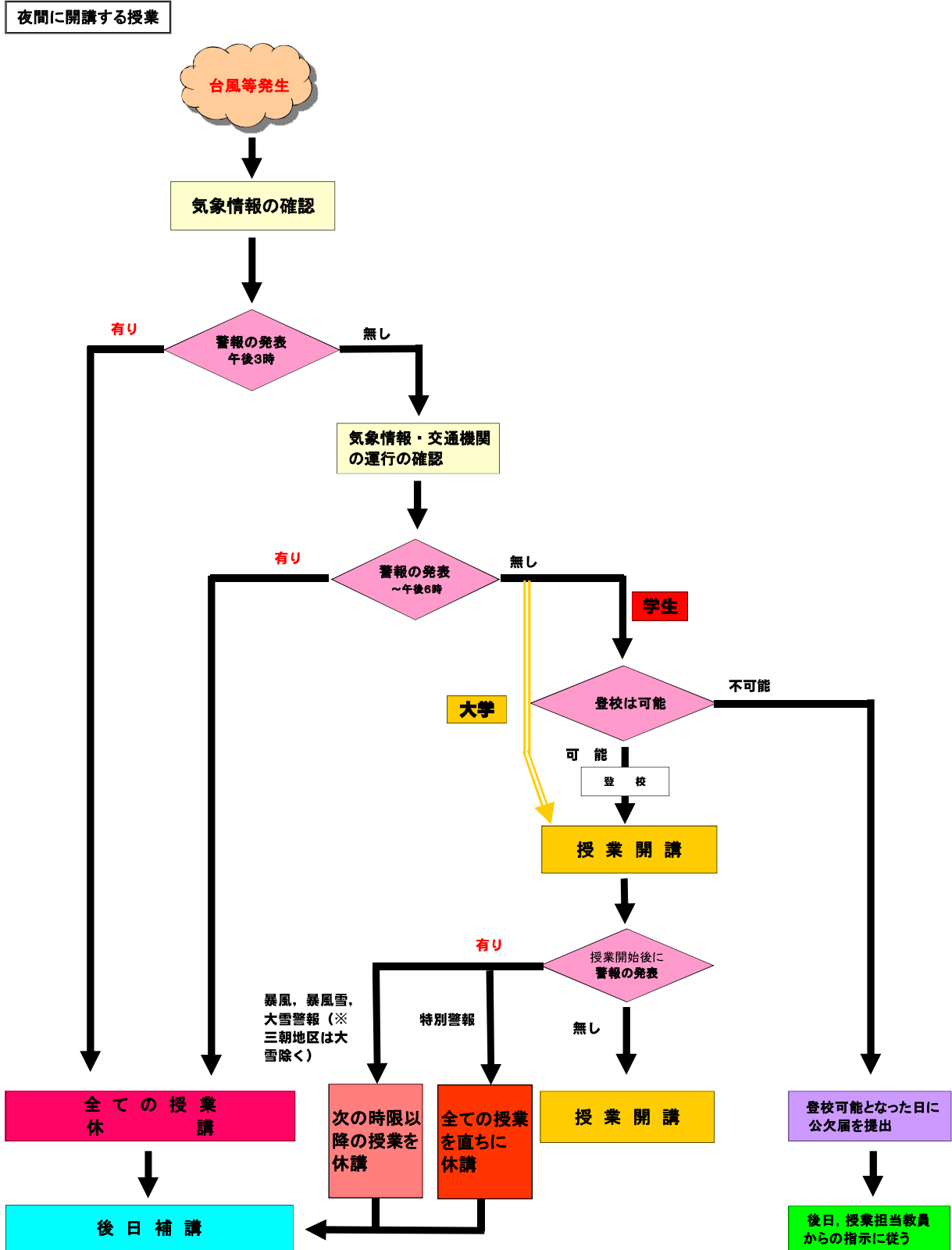
※3 「準公欠」とは… 公欠に準じて取り扱う授業欠席のこと。

【注意】 ◆ 上記の各手続きは、所属学部・コース・研究科の教務担当窓口にて行ってください。
◆ 上記以外の授業欠席については、公欠又は準公欠になりません。

暴風時等の対応について(授業の扱い)



暴風時等の対応について(授業の扱い)



6. 試験及び成績の評価

6-1 受験心得

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、オーディオプレーヤー等の電子機器類は、必ず電源を切っておくこと。ただし、監督者が受験中に使用を許可する電子機器類は除く。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず記入すること。
- ⑦ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑧ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑨ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて退出すると当該授業科目の単位は認定しない。
- ⑩ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、試験において不正行為を行った、不正行為を行おうとした、または不正行為を幫助した者に対しては、学則第58条（大学院学則第49条）により厳重な懲戒処分を行う。

試験における不正行為は次のとおりである。ここで、試験時間中とは、解答の開始から答案の提出までをいう（以下「試験時間中」という。）。

- 1) 代理（替玉）受験をしたり、させたりすること。
- 2) 試験時間中に、使用が許可されていないノート及び参考書等並びに電子機器類その他試験問題の参考となり得る物品を参照すること又は使用すること。
- 3) 試験時間中に、言語、動作又は電子機器類等により他人に教示すること又は教示を受けて解答に利用すること。
- 4) 答案を交換すること。
- 5) 試験時間中に、他の学生答案をのぞき見すること。
- 6) 試験時間中に、使用が許可されたノート及び参考書等並びに電子機器類を貸借すること。
- 7) 監督者の注意または指示に従わないこと。
- 8) レポートにおいて、剽窃、改ざん及び捏造などを行うこと。
- 9) その他、試験の公正な実施を妨げる行為を行うこと。

また、不正行為が判明した場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修しているすべての授業科目（学期をまたがって履修する授業科目を含む。）の単位は認定しない。

6-2 不正行為

不正行為が判明した場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、**当該学生が当該学期に履修登録しているすべての授業科目（学期をまたがって履修する授業科目を含む。）の単位は認定されないだけでなく、学則第58条により厳重な懲戒処分を受けます。**

6. 試験及び成績の評価

6-5 成績評価に関する質問・疑問の受付について

教養教育科目の成績評価に関する質問や疑問がある場合には、以下のように取り扱います。

- 1) 教養教育科目に関して、成績開示後、開示された成績に質問・疑問等がある場合は、当該授業担当教員に質問等を行うことができます。
- 2) 「岡山大学教養教育科目における成績評価異議申立に関する要項」に基づき、異議を申し立てることができますので、一般教育棟A棟2階学務企画課教育支援グループ（2番窓口）にその旨を申し出てください。
- 3) 上記に関わらず、成績評価に関する質問・疑問等がある場合には、一般教育棟A棟2階学務企画課教育支援グループ（2番窓口）にその旨を申し出てください。

7. 学びのサポート

7-1 教科書の購入方法

教養教育科目の授業科目ごとのテキスト，教材，参考書および販売店等については，シラバスに記載してありますので，確認の上，各取扱店にて購入してください。

●教科書販売について <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/kyouyou-oshirase.html>

7-2 教科書の活用方法

大学における教科書の利用は，単に授業時間内に利用されるものではありません。1つの授業で伝えるべき内容は大変たくさんあり，限られた授業時間内に伝えることのできる範囲は，氷山の一角にすぎません。

授業では理解できないことや，疑問点を解消するために予習・復習することが，授業を受講するのと同様に大切なことです。自習用のテキストとしても大いに活用してください。

7-3 大学内で自主的に学習したいとき

図書館を利用する

図書の貸出，閲覧をはじめ，図書館は皆さんが欲しいと思う情報を収集できる場です。



中央図書館▶

開館日・時間など図書館の詳細については，HPで確認してください。

●岡山大学附属図書館 HP <https://www.lib.okayama-u.ac.jp/>

7-4 授業が分からない，授業について質問があるとき

オフィス・アワーを活用する

オフィス・アワーとは，授業に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として，教員が研究室に在室している時間帯のことです。授業担当教員のオフィス・アワーはシラバスで確認することができます。

7. 学びのサポート

7-5 外国語をもっと学習したいとき

授業以外で、外国語の学習を自主的に行いたい方のために、次のような語学習得の場が用意されています。

- (1) L-café 一般教育棟A棟別館1階
平日 10時00分～18時00分(予定)

L-caféでは、以下の語学習得の機会を無料で提供しています。岡山大学生であればだれでも利用可能です。

- 1) 語学レッスン(英語, ドイツ語, フランス語, 韓国語, 中国語, その他) (登録制)
- 2) 留学生と一緒に参加できるイベント(L-café内の掲示でお知らせ)
- 3) JCPP(日本語を学びたい留学生と, 日本語を教えたい学生がパートナーとなり, 相互に学びを深めるプログラム) (登録制)
- 4) 留学や語学相談 (予約制)

L-caféでは異文化に興味のある人や外国語を学習している人が集まり、情報交換や、語学習得をする場所を提供しています。留学生がたくさん集まって、日本語や日本文化について学ぶ場所でもあり、学内で気軽に異文化交流が体験できます。多国籍な空間が広がるL-caféは、留学へのファーストステップです。国際交流に興味がある方、外国語を習得したい方、身近にできる留学体験をぜひL-caféで一緒に始めましょう。

(L-café HP)

<https://www.ipec.okayama-u.ac.jp/lcafe/>

(2) 初修外国語「カフェ」

初修外国語でも、ネイティブ留学生との語らいの場、検定試験対策などの質問コーナーのための「カフェ」を開設しています。開設時間と場所は以下のとおりです。いつでも気軽に参加してください。

中国語カフェ(中文茶房)

日時: 毎週火曜日 16時00分～17時30分

場所: 一般教育棟A棟別館1階 L-café内

その他, Facebookでも情報発信をしています。

<https://www.facebook.com/OkayamaUniversityZhongwenChafang/>

フランス語カフェ(カフェ・フランセ)

日時: 毎週火曜日, 15時30分～17時(L-caféの営業時間による)

場所: 一般教育棟A棟別館1階 L-café内

ブログやFacebookでも情報発信をしています。

<https://yasedo.wixsite.com/cafefrançais>

<https://www.facebook.com/OkayamaUniversiteCafeFrancais>

ドイツ語カフェ(シュタムティッシュ)

日時: 毎週火曜日, 15時30分～17時30分

場所: 一般教育棟C棟4階 教員ラウンジ

韓国語カフェ(イヤギ)

日時: 毎週月曜日, 16時00分～17時30分(予定)

場所: 一般教育棟C棟4階 教員ラウンジ

7. 学びのサポート

(3) にほんごカフェ「Sakura」

岡山大学では、様々な言語や文化を持った人たちが学んでいます。にほんごカフェは、留学生・日本人学生が日本語を共通言語として交流する場です。岡山大学に所属する人ならだれでも参加できます。リラックスした雰囲気の中で、いろいろなことを話しながら交流を深めませんか？

場所：一般教育棟A棟別館1階 L-café 内

日時：学期ごとに変ります。最新の情報は以下からご確認ください。

<https://www.ipec.okayama-u.ac.jp/language/japanese/>

<https://www.facebook.com/NihongoCafeSakura>

<https://www.instagram.com/nihongocafe.sakura/>

7-6 授業評価アンケート

このアンケートは、授業担当教員が受講学生とともに、授業をより良いものに改善していくことを目的として実施しています。アンケートは、学期末に実施されますので、ご協力をお願いします。アンケートの教養教育科目の集計結果については、岡山大学 HP で閲覧することができます。

卷末資料

指導教員等の署名 (課外活動による場合は、 サークル顧問教員の署名)

欠 席 届

年 月 日

授業担当教員

殿

学部・研究科等

学科・課程・専攻等

学 生 番 号

氏 名

下記のとおり、授業を欠席 $\left[\begin{array}{l} \text{します} \\ \text{しました} \end{array} \right]$ ので、届け出ます。

記

1 欠席する授業科目名

(曜日 時限)

2 欠席の期日

年 月 日 ~ 年 月 日

3 欠席の事由

- 教育実習等 介護等の体験 インターンシップ実習(単位認定を伴うもの)
 学外研修等 集中講義
 病気又はけが (医師の診断書(コピー可)を添付してください。)
 課 外 活 動 (大会等への出場を証明する書類等を添付してください。)
 就 職 活 動 (就職活動を証明する書類等を添付してください。)
 その他の活動 (その他の活動を証明する書類等を添付してください。)

上記欠席事由の詳細
